

結晶母

2010年3月号

発行：特定非営利活動法人
テラ・ルネッサンス

発行日：2010年3月1日

「結晶ができる時、最初に生まれる結晶。それが結晶母。結晶母の周りに同じ形をした元素が集まって、ひとつの大きな結晶をつくる。ひとつひとつの結晶は小さくても、結晶母を中心に集まった大きな結晶のネットワークは強く、たくましい！ そんな大事な結晶母の役割を、地球に住むひとりひとりが果たせたら・・・」そんな願いを込めて、名付けました。

テラ・ルネッサンス

Terra-Renaissance

地雷 子ども兵 小型武器 平和教育

2月6～7日 大阪で開催されたワン・ワールド・フェスティバルの会場にて

理事長・鬼丸昌也のメッセージ

2009年末にかけてウガンダ、カンボジア事務所からも職員が帰国して、ミーティングを重ねた。どのようなNGOでありたいのか。そのための課題は何か。課題を解決するために、私たちが持ち得ている資産は何か。をテーマに十分に話し合った。常に心にあるのは「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」。これに向かった戦略はできた。あとは多くの皆様と一緒に実践するのみ。2010年のテラ・ルネッサンスは大きく変わります。

目次：

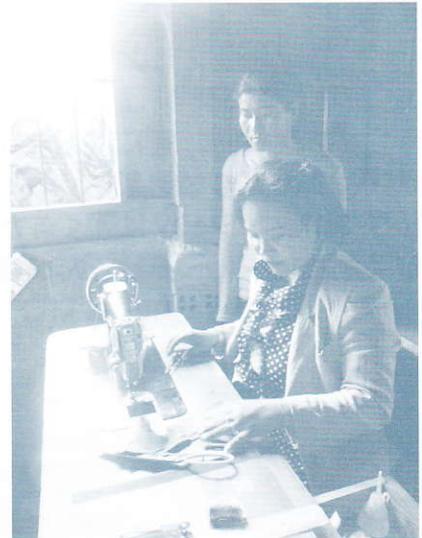
カンボジア事業報告	2
ラオス事業報告	3
ウガンダ事業報告	4
コンゴ事業報告	5
あくていびてい・れぼーと	6
ふえいす to ふえいす	7
てらるね手帳	8

【カンボジア】女性地雷被害者が教える地雷埋設地域での裁縫技術訓練

オッチョンボック村では、最貧困層への職業訓練として、裁縫技術訓練を2009年12月から始めました。4名の10代後半の若い女性たちが対象です。

教えるのは地雷被害者で、最貧困層家庭出身の女性スタッフのラウ。3カ月の研修後に裁縫技術訓練を勉強しなおして、初めて教える立場になりました。彼女もこの2～3カ月は土日も休まず、裁縫の先生の家まで通い、技術をしっかり教えられるように勉強していました。「土日は休みだから・・・」と言っても聞かず、「先生も休まないといけないから・・・」と言って、ようやく休んだ時もありました。技術訓練中は、オッチョンボック村に1人で泊まり込み、裁縫技術訓練を実施します。

今回の職業訓練のためのミシンや裁縫道具の一式は、株式会社ちえぞう様から、子どもたちのためにと、ご寄付いただきました。ありがとうございます。



村の若い女性たちに裁縫技術を教える地雷被害者の女性スタッフのラウ（手前）

【カンボジア】初めての月間地雷被害者ゼロ

～2012年「犠牲者ゼロ」を目指して～

2009年の11月、カンボジア地雷不発弾被害者情報機構（CMVIS）が記録をとっている1979年以降で、初めて月間地雷被害者がゼロになりました。皆様からご寄付いただいている地雷撤去用の資金は、提携する地雷撤去団体MAGに提供して

いますが、確実に地雷事故の減少につながっているとと言えます。ただ、年間では地雷・不発弾被害者は、まだ200名以上出ており、実際に報告されていない事故が存在する可能性もあります。また不発弾の被害者は、11月も死者2人・怪我人8人が出ています。さらに地雷に汚染されている村はまだ多く残されており、危険な状況の中、地雷の被害に脅えながら生活している人たちは、多く存在しています。2009年10月から村落開発支援を実施しているプレア・プット村もその1つです。現在、MAGは活動資金が少なくなったために、この村での撤去活動を中断している状況です。

カンボジア政府は、2012年までに地雷・不発弾の「犠牲者ゼロ」を掲げており、テラ・ルネッサンスではMAGへの地雷撤去活動への資金提供と、貧困層や

MAG地雷不発弾撤去活動成果
2009年10月-12月

撤去完了面積	548,811㎡
地雷撤去実施村	17村
撤去された対人地雷	1806個
撤去された対戦車地雷	4個
撤去された不発弾	4407発
受益者数	14,798人

MAGが四半期ごとに発行する活動レポート
MAGazine2010年1月号より

【ラオス】桜咲く遠隔地の中学校に溢れる希望 ～不発弾撤去&学校建設支援～



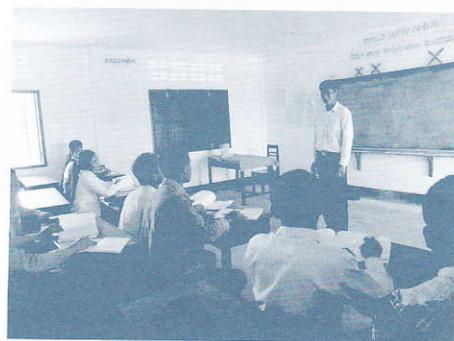
不発弾撤去をしたエリアを示すマーク
(右手前)と中学校の校舎

プレマ株式会社様のご支援で、不発弾撤去の後に中学校を建設し、2009年9月1日に開校式を行ったラオス・シエンクアン県のカンパニオン村。険しい山岳地帯に位置するこの地域では、山桜が満開を迎えた2010年2月、5教室の中学校では203人(女子:86人)が勉強しています。

中学校が完成する前は、教室が十分になかったために、1日2回同じ授業が行われ、午前と午後で違う生徒が勉強していたため、校長先生によれば、「生徒の数はとても多かったけれども、教育の質はどうしても低くなっていた」そうです。現在12人の先生が教えており、ほとんどは日本政府

府の支援で建てられたカンカイ教員養成大学で勉強した先生たちです。中学生が勉強すると同時に、この教員養成大学で勉強している将来教員を目指す大学生たちも、ここで研修を受けていました。

来学期には、30人の生徒が増えるだろうというこの学校では、将来のラオスを背負う若い人たちの大きな希望と活気が溢れていました。



完成した新しい校舎の教室で勉強する中学生

【ラオス】お買い物で金属探知機をラオスへ支援 ～寄付金付き商品の紹介～

テラ・ルネッサンスが提携する不発弾撤去団体MAGの撤去チームは、2人1組で1台の金属探知機(約6,000ドル)を使用しています。しかし、金属探知機が足りないために、撤去作業は、とても遅くなっていました。昨年9月、ラオスの中学校の開校式に出席されたプレマ株式会社の社員の皆様が、MAGラオスへ金属探知機をご寄付しようと、企画していただきました。

まず、第一弾が、モン族のPATCHワークを紹介する「Camecrafts(カマクラフツ)」の鍋つかみ。モン族は伝統的にきれいな刺繍製品をつくることで有名ですが、そのモン族の模様が入った鍋つかみです。ご購入いただくと、一組(2枚一組)につき1,000円が、不発弾撤去のための金属探知機購入への寄付となります。

そして、第二弾が、かえる印のとろける愛情バーク。株式会社日本創健で営業部長をつとめる本村さんは、中学校開校式にご参加くださり、肌を守る天然馬油、1本につき100円の寄付を決定してくださいました。

ラオスでは、まず安心して暮らせる土地がなければ何も始めることができません。お買い物でできる、社会貢献の場をどうぞご利用ください。

商品詳細・購入はプレマさんのホームページより → プレマ ラオス支援
または <http://www.binchoutan.com/laos.html>



きれいなモン族の刺繍入り鍋つかみ

お肌を守る天然馬油



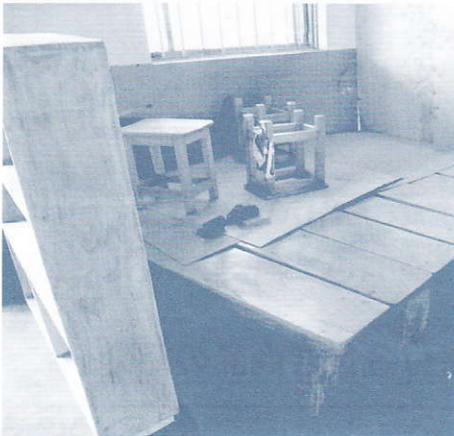
【ウガンダ】 5期生の元子ども兵たちが、初めての作品を完成させました！



第5期生の元子ども兵を受け入れて半年以上が経ちました。受け入れた当初は、あまり自信もなく、スタッフや講師に言われるがまま、木工大工や洋裁の勉強をしていた生徒たちも、今では多くが自分から元気に挨拶をしてくれるようになり、授業が終わった後に、「あれができるようになった！」と話しかけてくれる生徒もいます。

最初の1学期では、主に基礎を勉強するために、家具や洋服を作るための理論やミシンなど用具の使い方など基礎的な勉強が中心だったのですが、1学期の最後（昨年12月）に、実技試験で初めての製品を作りました。洋裁を勉強している生徒たちは、セメント袋を布代わりにして子ども服を製作し、木工大工を勉強している生徒たちは長いすをグループで共同制作しました。

左記の写真がそれぞれの作品ですが、初めての作品にしては上々の出来でした。しかし、うまい下手以前に、どの子も自分の手で製品を作れたことが本当にうれしかったようで、出来上がったセメント袋でできた服を持って、友達や私たちスタッフにうれしそうな笑顔で見せに来てくれたり、お互いの製品を交換し合っ、その服を自分の子どもに着せたりしながら笑って喜んでいる姿がとても印象に残っています。



【ウガンダ】 元子ども兵だからこそ平和を願う

今年に入り、職業訓練ではさらに実践的な練習に励んでいます。同時にその他の科目も一生懸命勉強しています。写真はそのうちの1つ、平和教育の授業の様子ですが、この時、「つながり」とは？ というテーマでグループに分かれて話し合いました。

その時にあるグループでは、「つながりとは、平和そのものだ。なぜなら、私たちがつながりを感じることができれば、誰も傷つけ合うことができなくなるからだ」という意見を述べてくれました。他のグループもみんな本当に熱く平和や、つながりということについて発言する姿を見ていて、元兵士だからこそ、平和を人一倍強く感じているのだと思いました。

というのも、元子ども兵の中には、反政府軍に拘束されている間に、「暴力で人をコントロールする」思考を植え付けられ、帰還した後もそのような考え方をしている場合もあるのです。しかし、この日の彼らの発言を聞いていて、暴力や裏切りがあたりまえの世界にいた元子ども兵だからこそ、その悲しさや辛さを普通の人以上によく理解しているのだと感じさせられました。



【コンゴ】 紛争下での食料自給をめざす相互扶助（助け合い）グループ

昨年、株式会社アイケイ様のグローブ基金からのご寄付により完成したグローブハウスⅢで、元子ども兵を含む紛争被害者が生活改善できるように、職業訓練や農業支援などが続いています。プロジェクトを行っている地域のコンゴ東部の南キブ州では治安が安定せず、特に昨年、反乱軍に対する掃討作戦が始まってからは、同州のカロンゲ区域にも反乱軍が流入し、住民の殺害や食料の略奪が頻繁に起こっています。

昨年来、この区域で、元子ども兵や性的虐待を受けた女性が最も多く住んでいる12ヶ村で、住民たちが協力して食料を確保できるように相互扶助グループを組織し、農業指導や種子の配布などを行い、無事、初めての農作物を収穫することができました。各グループは協力して主食となる穀物や野菜を栽培し、収穫が少なかったり、反乱軍による食料の略奪などの影響を受けた他のグループを補助する仕組みで、互いの相互扶助（助け合い）を促進しながら自給食料の安定化を目指しています。グループのメンバーのほとんどは反乱軍や政府軍に性的虐待を受けたり、そのことで夫から見放された未亡人たちで、これまで食料が手に入らず孤立していた女性たちも、この取り組みが始まってからは、他のメンバーらと協力することで、日々の食料が手に入るようになりました。現在も不安定な状況が続いていますが、今後も支援を続けながら、紛争下での彼女たちの生活を改善していきたいと考えています。

また、同様に12ヶ村で元子ども兵が中心となり、グループを組織し、魚の養殖を行う取り組みが始まりました。現在、母体となる、ため池に稚魚1,280匹を放流しました。今年4月には稚魚が成長し、各村にも、それぞれの、ため池作りが完成する予定です。



紛争下で助け合いながら食料の自給を目指す女性たち



魚の養殖のために1,280匹の稚魚を放流する元子ども兵たち

【コンゴ】 パートナー団体の能力向上にむけて



グローブハウスⅢを運営する協力団体GRAMのメンバーたち

コンゴ事業を円滑に進めるためには、パートナー団体のGRAM（グラム）が上述したプロジェクトなどを運営・管理していく能力を向上することが不可欠です。その為に、これまでもプロジェクトの運営・管理などの指導やオフィス器具（パソコン等）の支援を行ってきましたが、今回、職業訓練（手工芸）を教える為の講習会を実施しました。これらの手工芸品の製作は紛争下の女性たちが家庭でも製作可能なもので、今年の夏ごろにはグローブハウスⅢで元子ども兵や紛争被害者（女性）への訓練が開始される予定です。

チーム「テラ・ルネ」を目指して

2009年末に、ウガンダ、カンボジアからも職員が帰国して、何度もミーティングを重ねました。ミーティングの目的は、この厳しい時代を乗り越え、テラ・ルネッサンスの設立目的「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」に向けて、今後の活動のありかたを、全職員で決めることです。



▼テラ・ルネッサンスの現状を「見える化」して共有する。

まずは、テラ・ルネッサンスの現状を把握するために、12月25日（金）には、きょうとNPOセンターから野池雅人様にファシリテーターとして参画していただいて、テラ・ルネッサンスの課題と、課題を解決するために使える資産を「棚卸」しました。

外部から司会を入れることで、それぞれの職員が議論に専念することが可能になります。それぞれが思っていることを、言葉にしたり、書き出すことで、「あっ、彼はこんなことを考えているんだ」、「そんな見方もあるんだ」と、テラ・ルネッサンスに対するそれぞれの思いを共有することができました。

27日（日）には、全職員とインターンで、国際協力事業についての理解を深めました。カンボジア、ウガンダなどで行っている支援活動について、現地に駐在している職員から直接、報告を聞けるまたとないチャンスになりました。

▼チーム「テラ・ルネ」への脱皮を図る。

続いて、28日（月）には、2012年度末において、テラ・ルネッサンスはこんなNGOでありたいという未来像について、全職員で考えました。それを受けて、最終日29日（火）には、アドバイザーとして税理士、PR会社の方にもミーティングに参加いただき、2012年度末における理想のテラ・ルネッサンス像の実現に向けて、「課題」と「資産」を踏まえ、2010年度の行動計画の骨子を策定しました。

そこで議論が白熱したのは、テラ・ルネッサンスが創業者の個人商店から、法人としてチームプレーによる活動ができるようにするには、どのような行動が必要かという点です。少し砕けた言葉でいえば、「脱鬼丸依存」。かなり議論が白熱しました。創業者で代表者である私の立場からみると、議論を交わしている職員の姿が、とても頼もしくてたまりませんでした。

野池雅人さん（特定非営利活動法人きょうとNPOセンター・事務局次長）

自分たちの組織や事業の現状や課題を、出し合い、議論するという自体は、決して楽しいことではありません。そのため、多くの団体でも「必要」なこととわかっていても、実際にはやらない団体が多いのが現状です。今回、テラ・ルネがスタッフ全員で、今の自分たちを見つめ直し、強みを確認するという時間をもたれたこと、さらに第三者を入れて行なったこと自体、非常に評価されることであると思えますし、また、社会的評価の高いテラ・ルネであっても、現状に慢心することなく、常に自分たちのあり方について高い意識を持ち続けようとする「プロ」の集団であることに、大変感銘を受けました。

すべてのことは『一人』から始まりますが、すべてのことを成し遂げるには、『みんな』のちからが必要なのです。そのためには、テラ・ルネッサンスに関わるすべての職員、インターンに主体性を持って関わってもらうことが必要になります。自分がテラ・ルネッサンスのために、設立目的を追求するために、何ができるのかと考え、主体的な行動していくと、 $1+1=\infty$ （無限大）となるのです。

今回のミーティングを通じて、テラ・ルネッサンスのあるべき姿、行動計画を策定すること以上に、職員、インターン一人一人に主体性が育まれたことが、何よりの成果でした。

チャリティーチャイルドカット

京都市の美容院クンクンルーホー（KKLH）さんが行っているボランティア企画です。年に3回、休日返上で、12歳以下の子どもを対象としたチャリティーカットを行い、その売上金を私たちと沖縄のNGOアジアチャイルドサポートさんに寄付してくださっています。

この企画はKKLHさんがテラ・ルネッサンスの活動を知り、「自分たちにできることはないだろうか」と始められたものです。私も前回のチャリティーカットに参加し、子どもたちやお母さんに、カット代金がウガンダでの給食費に充てられることを説明し、クイズやお絵かきを通して交流しました。今後、子どもたちに描いてもらった絵をウガンダへ届け、日本とウガンダの子どもたちの交流を作っていきたいと思います。（きはら）



テラ・ルネ インターン紹介



中山志都香

京都府出身の龍谷大学3回生で、昨年4月後半からインターンをさせていただいています。回収事業担当者として様々な経験から学ぶことが多く、今はそれを活かしつつ就職活動と並行し、事業のお手伝いをしています。

大阪大学外国語学部3回の秋田です。インターンを始めて3ヶ月目に入りました。色々なことを日々学ばせて頂いています。これからもスタッフの皆さんと共に、テラ・ルネの発展に貢献して行きたいと思っています。

秋田桃子



稲垣仁美

兵庫県出身の現在立命館大学4回生の稲垣仁美です。1月より独自インターン生として加わりました。毎回、様々な仕事を通じて多くのことを学ばせて頂いています。今後さらに主体的に考え実践していきたいです。

吉田真衣 新スタッフ採用！

3月1日付で、テラ・ルネッサンスでお世話になることになりました、吉田真衣です。大学院時代、テラ・ルネッサンスに約2年半インターン生として、ウガンダ事業に携わり、卒業後、約2年間民間企業で働いた後、ご縁があり、テラ・ルネッサンスで再びお世話になることになりました。

当面は、事務所のウガンダ事業を中心に、国内事務所の基盤整備に関わる業務を担当致します。テラ・ルネッサンスに新たな空気を入れることができるよう、2年間の企業での経験も活かしながら、日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。

「結晶母」をお読み頂いている方々にも、お会いすることができることを楽しみにしております。これから、どうぞ宜しくお願い致します。



吉田真衣（写真中央）

てらるね手帳

ハガキとインクの回収キャンペーンのご報告



ただいまインクの仕分け作業中

12月から1月末まで、書き損じハガキと使用済みインクカートリッジの回収キャンペーンを行いました。全国から120を超える個人、企業、団体、学校のご協力をいただきました。集計作業の結果、ハガキの合計枚数は10,645枚、金額にして39万1,964円になりました。インクカートリッジは、仕分けをしてエネックス株式会社様に回収していただきました。インクカートリッジの換金額は、2月の末にホームページとブログでご報告します。

インターンの私にとっては、初めて行うキャンペーンでした。お一人お一人の力が合わさって、大きな成果が生まれることに感動しました。これからも回収を続けますので、ますますのご協力をよろしくお願いします。（よしだ）

冬季募金へのご協力 ありがとうございました！

昨年12月にお送りいたしました冬季募金のお願いに対し、50人の皆様（団体も含む）から39万4,352円ものご寄付をお寄せいただきました。皆様のあたたかいご支援に心より感謝申し上げます。

ウガンダでは、2005年より元・子ども兵社会復帰支援を開始し、現在5年目に入りました。本誌3ページには、小川駐在員からの報告がありますので、そちらもお読みください。

お預かりいたしましたご寄付は、現在訓練を行っている5期生の基礎教育・職業訓練費、プログラム期間中の食料・医療費に充てさせていただきます。

どうぞ今後とも、現地の人々の希望をつなぐご協力を、お願いいたします。

（まきの）



今後の予定（2010年3月～6月）

- ★3月27日（土）講演：鬼丸昌也（新潟）
 - ★4月03日（土）講演：鬼丸昌也（東京）
 - ★5月15日（土）講演：鬼丸昌也（長野）
 - ★5月22日（土）講演：鬼丸昌也（京都）
 - ★6月05日（土）講演：鬼丸昌也（愛知）
 - ★6月19日（土）総会&活動報告会（京都）
- お問い合わせはテラ・ルネッサンス事務局まで。

【編集後記】（事務局：まきの）

本年秋には、テラ・ルネッサンスも設立10周年を迎えます。これまで支えてくださった皆様方への感謝の気持ちを込めて、記念イベントを開催する予定です。イベントの開催は11月27日（土）を予定しています。詳細が決まり次第ご報告させていただきますが、今からご予定に入れていただければと思っております。

今年の秋はぜひ京都へお越しくださいませ。

<編集・発行>

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス
〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町5-23-105
Tel/Fax : 075-645-1802
E-mail : contact@terra-r.jp
<http://www.terra-r.jp/>（公式）
<http://www.terra-ippo.jp/>（支援）

